



男なら…夢見た事はあるだろう。一度に複数の女と夜を共にする夢を—  
両手に別の女の腰を抱いて交互に舌を絡ませ、順番に4つ並んだ乳房を  
弄び、乳房を口に含んでそのつぼみを転がす。二人の乳首に唾液で  
橋をかけるのもいいだろう。

右手と左手で二人の女の秘所を同時に暴き、形と匂いと味と比べ  
右耳と左耳で手淫によって零れた二つの嬌声を聞き比べるのもいい。

そしてやはり一番の醍醐味は、膣比べ…だろう。

期間が空けば感想はぼやける

今日のa子は先週のb子よりいいマンコな気がする?とか思っても  
またb子を抱いてみたらa子より具合いいかも思ったり

徐々にc子とやりたいけど、今援助してる子らより良かったか  
思い出せなかったり…。

しかし3Pならその場で膣の好みを比べることが出来る。

時間を区切って交互に膣を突き比べるのもいいし、フンポットンぽとんに  
別のマンコに肉棒を捻じ込むのも絶対にやっておきたい

射精の瞬間も堪らないモノになるだろう。

そのまま膣内に射精すか、射精の瞬間引き抜いてもう一人の女に膣内なかだし射精をキメるのもなかなかそりそりそう。

尻か乳を二つ並べてぶっかけるのもいい。

当然最後は二人でお掃除フェラをしてもらうー

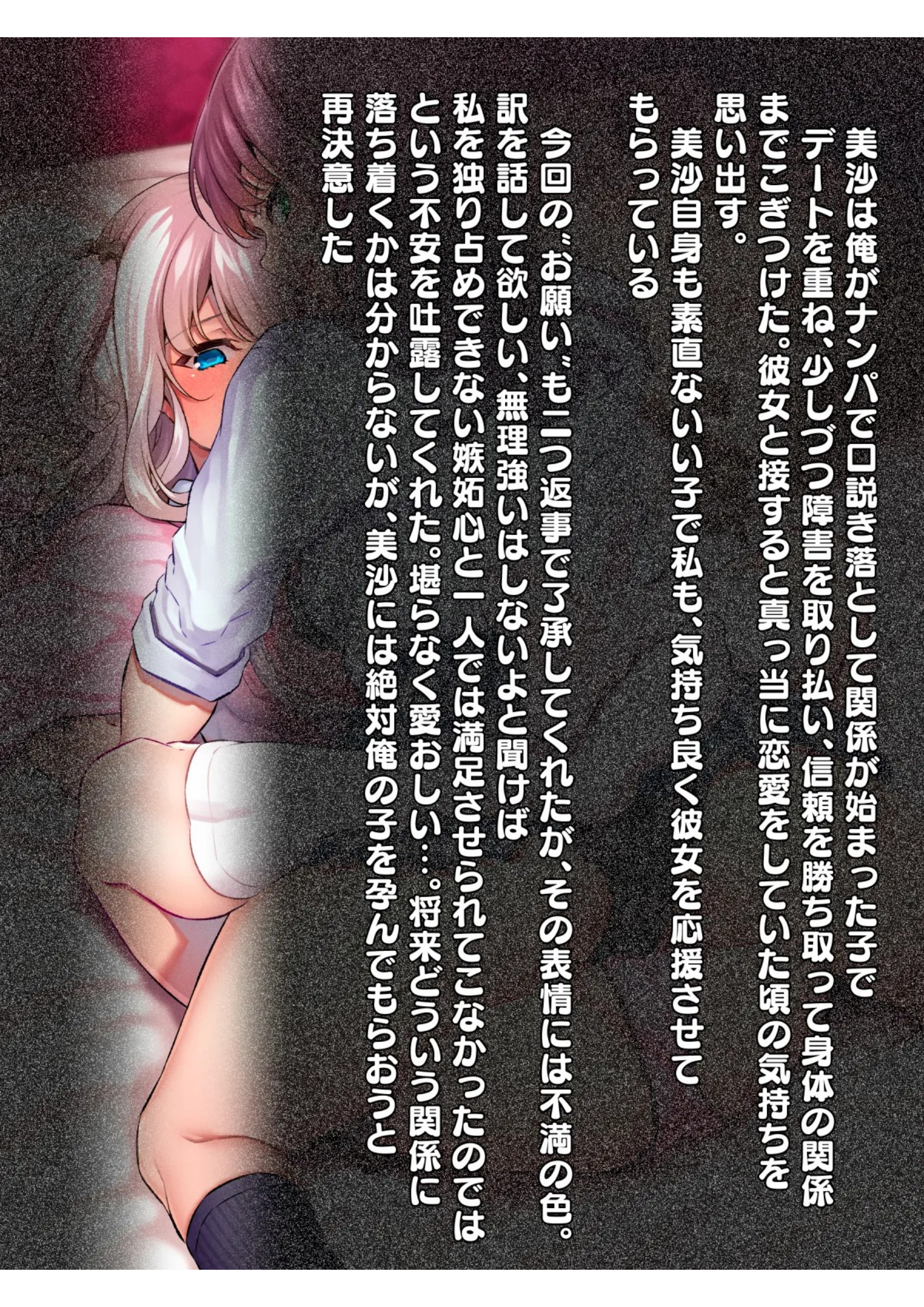
たちまち私のペニスは固さを取り戻し、精魂尽き果てるまで二人の女の身体を貪るだろうー！…

—そんな夢が叶う日がとうとう俺にもやってきたー！…





美沙(みさ)と舞香(まいか)は二人とも俺が応援している女の子だ



美沙は俺がナンパで口説き落として関係が始まった子でデートを重ね、少しづつ障害を取り払い、信頼を勝ち取って身体の関係までこぎつけた。彼女と接すると真っ当に恋愛をしていた頃の気持ちを思い出す。

美沙自身も素直ないい子で私も、気持ち良く彼女を応援させてもらっている

今回の「お願い」も二つ返事で了承してくれたが、その表情には不満の色。訳を話して欲しい、無理強いはしないよと聞けば私を独り占めできない嫉妬心と一人では満足させられてこなかったのではという不安を吐露してくれた。堪らなく愛おしい…。将来どういう関係に落ち着くかは分からないが、美沙には絶対俺の子を孕んでもらおうと再決意した

舞香は逆にアプリで知り合った子だ。愛想はいいが大人を舐め腐ってるのが態度や言動の端に出ている。顔も身体も上物で性交渉も気に入った少数としかしてないらしいから愛用はしているが、まあ俺の中では都合の良い肉オナホといった印象。

今回のお願いは、いつもの倍額の支援と事前に相手(美沙)の顔をチエックする事を条件にしてきた(ブスと一緒に嫌らしい)倍額は痛いが、こんな機会二度とないかもしれない……

まあ、そう何度もあったら破産は必至だが……



そんなわけで始まった3Pだったが、結論から言えば…最高だった

駅前で待ち合わせ、右手を舞香の、左手を美沙の腰に回しホテルまでの道を三人で歩く。道行く男達の羨望の視線が気持ち良すぎてイってしまっていた

信号待ちの間、スカートの中に手を潜らせ、二人の尻を弄ぶ。

揉んだり、下着の中に指を差し入れたり……

後ろの男どもは捲れたスカートから覗くパンツと桃尻に釘付けだろう…幸せの御裾分けた。

美沙は耳まで真っ赤にして俯いているがされるがままだ

「そーゆーのはホテルまで我慢しましょうねえ」

舞香が笑顔を向けつつも自分の尻を揉みしだく俺の手の甲をつねり上げる

「…ホテル」

舞香の言葉を反芻する男の音が後ろから聞こえた。

そうです、これからホテル行くんですよ俺たち。…あーやば、パンツ我慢汁で濡れてるわこれ

部屋をとって、荷物を置いて、二人を目の前に並んで立たせる

二対の目が俺を見つめている

これからこの少女二人と一緒に犯す……堪らん……

二人の肩を抱いて、美沙、舞香の順でキスをして舌を絡める

舞香のキスはまあ下品だ。男が喜ぶようにぺちやぺちやと音を立て舌を絡め唾液を啜る。

横で美沙が驚いているのが気配で分かる。

(他人がやってる事なんて見た事無いだろうしな……)

俺が美沙といつもしている行為はまあ、おとなしめ、なので今日は大いに驚くことになるだろうな。

再度美沙へと顔を向けると負けじと強く音を立てて俺の舌を舐てくれた本当に可愛い子だ。舞香はハイハイと少し呆れた仕草を見せていた

その後も二人の身体の隅々まで同時に比べ、味わった。

うなじや脇の匂い、おっぱいの柔らかさ、乳首やマンコを味わって二人の違いと、3Pの違いを堪能した

特に最高だったのは手マンをした時…両手でぐちゅぐちゅと別々のマンコをほじり、左右の耳はそれぞれ異なる喘ぎ声で鼓膜を震わせ鼻先をかすめる綺麗な二色の髪の毛は、鼻孔に甘い香りと清涼感のある香りを届けてくれた  
私の胸の上で二人の女の子が陶醉するような顔で肉欲に耽る様はまさに至福の時といったところだ…

(最高だ……そろそろメインデッシュを頂こうか…)

二人に指示して出し入れがしやすいような体勢になってもらう  
そそのる格好だ……さて

(膣比べを始めよう…)


まだまだおぼこい美沙の子供マンコと、使い込まれてゴリラゴリラが  
マン肉の合間から顔を覗かせる舞香のマンコが縦に並んでいる  
(見た目は美沙の圧勝だな)

どうせすぐにぐちゃぐちゃになるが舞香の愛液だらけの

チンポを美沙に入れるのはなんか嫌だったので

最初は美沙に入れることにした





狭く…まだ頑なさが残るが、徐々に  
俺のチンコにフィットしつつある  
美沙のマンコ

突けば強めの抵抗と共に肉棒全体にぞくぞくと快楽の痺れが走り彼女の膣内も過敏に反応して握るようにチンポを絞るその刺激に耐えられず甘い声を突くたびに漏らしてしまう

舞香がいるからか  
今日は少し抑えめな  
声だな…

んっ

あッ

あッ

あッ

あッ

あッ

片や舞香のマンコはとらんと  
入れると腔肉がねっとりとし  
チンコにまわりつき具合が良い

あっ…ん♡  
やっ…来たあっ♡

ぬん

ぬん

ぬん

ぬん

ぬん

美沙ほどの締めはないが  
腔内への力の入れ方と腰の角度の調整が上手く  
舞香の意思でチンコをマンコで  
しごいてくれるのが分かって、まあ堪らん



美沙のマン「おっ...」



舞香のマンコも…  
多少の差異はあれども  
正直どっちも気持ちいい

(まあ歳も同じで二人とも運動部だ、そこまでの差は出ないか……)  
…ゆくゆくは美沙がこなれて行って舞香のに寄っていくのかなあ  
とか考えていると

「満足しましたあ？男の人ってほんとバ…エッチな事への  
探求心すごいよねーW正直こっちとしては延々とお預けくらいついてる  
みたいなんでちょっとイライラするんだけど？」

小バカにした表情で舞香がのたまう

カチンときたが同時に良い企みを思いついた

(まあマン)の具合変わんないなら最悪舞香は切ってもいいだろう。  
もう少しまくいけば今より強気に相手出来るだろうしな)

「美沙、足でしっぴかり舞香抑えててね」

「はいっ…あっ…あっあんっ♥」

そう指示して俺は美沙の腔を激しく攻め立てる

「はあ…美沙ちゃんが先かあ…暇あ…」

舞香、もうお前の番は回ってこないよ



はっ...

はっ...

はっ...

はっ...

んっ

はっ...

射精すつ

はいつはいつ  
いっばいっ  
下さい♡

射精すぞ...っ  
舞香っ!!

はっ...

はっ...

はっ...

はっ...



吐精が終わると同時に  
再び美沙の膣内へと  
チンコを捻じ込む

ちよつとっ！  
ワケ分かんない  
んだけどっ！！

んっ

あ

あ

舞香の言う通り  
中途半端は良くないと  
思ってた  
美沙の事気持ち良く  
してやることにしたよ

んっ

んっ

んっ

んっ

そうじゃなくて何で私の膣内に出したわけ!?

「美沙の膣内はさあ…舞香のとは比べ物にならないほど気持ちいいわけ、比べて見てこんなに違うとは思わなかったよ(嘘だけど)」

「…っ…理由になってない」

(ははっ人にはきつく当たるのに弱いなあ)

「舞香はコンドームだからだよ」

「は？」

「察し悪いなあ…美沙の気持ちいいマンコを綺麗に長く使いたいわけだよ。でも膣内射精したらすぐ俺のでぐちゅぐちゅになっちゃうだろ？」

だから射精は「コンドーム」の膣内にするって事」

「…は？」

「前々からセックスあんま好きじゃないって言ってたし舞香としても好都合だろ？」

「ほらほらマンコ合わせて、射精のギリギリまでは「マンコ」堪能したいから」「コンドーム穴はマンコ穴のすぐ近くに頼むよ。美沙押さえて」

「…はい」

そう言うのと美沙は両足で舞香の尻をホールドした

「放しなさいよっいのっ……」

あゝ…イくっ…  
美沙のマンコすげえ  
気持ちいからもう射精るっ

止めろっ…  
このクズっ…!?

んっ

やめっ…

イク…ッ

イクっ…  
ミ

あゝ…

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

あゝ

あゝ



〜ツツ!!

おいマンコ締めろ  
舞香 今までめっちゃ  
気持ち良かったのに  
余韻が台無しだ…

絶対…許さない…  
もう相手して  
あげないからっ

あゝいいよ。金はかかるのに  
大したことないってわかった  
から未練無いわ……  
今までありがとね〜



美沙っ分かるよ  
もうイキそうなんだね？

はっ…はいつ…

離せっのっ!!

あのっ…私も  
膣内に…欲しいです…

いいのかい…?

はいつ…っいぽっ  
下さっ♥

分かったっ射精す  
美沙の中にもっ  
射精すよっ!!

くっくっ

くっくっ

くっくっ

はっ

はっ



…もうこの子の膣内に  
射精したんだから…  
ゴンドームとやらは  
要らないでしょ

離して帰るから



おれだよ  
コンドーム役の…  
一発だけイカせて  
あげるよっ

はあ？いらねえよ  
勝手に入れんなっ

遠慮…すんなよっ

ズッ  
ズッ  
ズッ

ぬんぬん

ぬんぬん

ぬんぬん

ぬんぬん





美沙が気持ち良く  
よがってんの見て

腰じくつかせてたの  
こっちからはバレバレ  
だったぜw

はぁ

はっ

んっ

んっ

はぁ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

かっ...かっ...  
さめい...さめい...

くっ...くっ...



オラっ…イケっ!!

避妊具扱いされて  
悦ぶマゾ女がっ…

はぁ

はっ

んっ

んっ

はぁ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

ぬっ

あっ…

っ…





はぁ

はぁ

はぁ

あゝ………  
最っ高………

二人の若い女の  
性器から俺の子種が  
溢れている

絶景だ…これ以上の  
絶景は無いな…

文句を言われても構わないから  
これを写真に残そうと携帯を  
取ろうと後ろを向く……

刹那、側頭部に強い衝撃と耳にガンと鈍い音が響き、俺の意識は途絶えた。

―目を覚ますと、心配そうな顔で美沙が俺を覗いていた

何でも俺が携帯を探している隙に舞香がリュックでフルスイングをキメ、俺が昏倒している間に出て行ったらしい  
もう切ってもいいかと思って好き放題やりすぎたな……。財布も無事だし、いつも支援は帰り際に渡すので舞香はノーギャラで出て行ったようだ。  
二倍の額を払わなくて良かったと、そう思おう。

―ただ誤算だったのは美沙との関係だ。

あれ以来、なかなか会ってくれなくなってしまった。俺の舞香に対する態度に思うところがあつたんだろう。

初3Pで片方はもういらなと思うていたから気が大きくなってしまった。紳士な俺しか知らない美沙には衝撃も大きかっただろう……。手塩にかけた美沙を手放しのは惜しい……。が今は何を言っても効果は薄いだろう。

とりあえずはほとぼりが冷めるまでは別の子でも応援してみるか……。

































